

第3回 科学技術・学術政策研究所 機関評価・中期計画検討委員会  
議事概要

【日時】 令和2年12月18日（金）14:30-15:30

【場所】 オンライン会議

【出席者】

委員：西尾章治郎委員長、青島矢一委員、伊藤聡委員、上田修功委員、加藤百合子委員、川合眞紀委員、小林傳司委員、小安重夫委員、城山英明委員、武田晴夫委員、辻村達哉委員、藤沢久美委員、松田一敬委員、渡辺美代子委員

事務局：菱山豊所長、岡谷重雄総務研究官、今井寛上席フェロー、赤池伸一上席フェロー、伊地知寛博客員総括主任研究官、富澤宏之総括主任研究官、星野利彦総括上席研究官、堀田継匡総括上席研究官、横尾淑子センター長、伊神正貫室長、郡司良男課長、小野真沙美課長

【冒頭】 菱山所長より開会挨拶

【議題1】 科学技術・学術政策研究所における政策研究の在り方について  
事務局より資料1、資料2の説明。主な質疑応答は以下のとおり。

(委員)

- ・予測調査において市民参加型の検討を行うとある。アウトリーチにおいてもこの取組は重要だと思うが、具体的にどのようなものを想定しているのか。

(事務局)

- ・直近の予測調査でも、社会の未来像や社会ビジョンについて、地域ワークショップを開いた。こういった取組を引き続き行うことで、我々のフォーサイトを活用して、地域ごとの社会像を地域の人たちと一緒に作り上げていきたい。

(委員)

- ・全体としてバランス良くまとまっている。
- ・資料2のp.1の27行目、EBPMについて、ここでの「エビデンス」とは具体的にどういった範囲を対象としているのか明記した方が良い。定性・定量データとあるが、定性データとは何を念頭にしているのか。こういったエビデンスを収集し、可視化していくうえでも、共通認識をもっておく必要がある。
- ・資料2のp.2の17行目、「EBPMに基づく政策形成プロセス」とあるが、政策形成が重なっているので修正すべき。
- ・資料2のp.2の25行目、「政策提言型の情報発信」とあり、NISTEPとして一歩踏み出すことが重要であると思う一方、ここまで言い切って良いかは熟考すべき。特定のポリシー

オプションを発信するというより、これまで考えられていなかった課題について発信する役割を担う方が良いのではないか。

- ・資料2のp.3の34行目、価値観の変容や社会の変化の探索に対して、過度に主観的要素が入らないようにするとあるが、具体的にはどういうことか。社会像の探索は主観的にならないを得ないと思う。主観的なデータを客観的に収集するというのであれば、表現を改めるべき。

(事務局)

- ・定性データとして念頭においていたのは、エキスパートジャッジのようなものである。

(委員)

- ・定性データにも様々なレベルがあるので、扱いを明確化すべきである。エビデンスにもいろいろな種類があるため、エビデンスの収集にあたり、予め具体的に示しておいた方が良い。

(委員長)

- ・定量データとEBPMにおけるエビデンスは異なるものとして、両者の違いを明確化してほしい。
- ・資料2のp.2の25行目、「政策提言型」について、議論すべき課題的なものも提言するというのであれば、単に「提言型」という表現にしてはどうか。

(事務局)

- ・「政策提言型の情報発信」については、現行の中期計画においても同様の表現を用いている。これはNISTEPとして政策の検討に資するエビデンスを出していくという意味であり、政策そのものを提言するというものではない。したがって「政策提言」ではなく「政策提言型」としている。

(委員)

- ・思想はわかった。ただし、この表現は今後も残るので、改めて考えた方が良い。

(委員長)

- ・資料2のp.3の34行目、「過度に主観的でない」という表現について、より適切な表現に改めてほしい。

(委員)

- ・人文・社会科学については次期科学技術・イノベーション基本計画においても議論されており、「総合知」という概念や、未来をバックキャスト型で考えるともある。ただし、Society 5.0で未来を語ることが固定されつつあると感じており、NISTEPのフォーサイトの知見が有効的に活用されると期待する。フォーサイトについて、JSTの事業や産業界と連携する

ことも重要であり、NISTEP には俯瞰的な未来分析を行ってほしい。

- 「Science for Policy」と「Policy for Science」という概念があるが、今般のコロナ禍において、特に前者における科学と政治の関係がギクシャクしていると感じる。NISTEP にはこの原因をメタで分析し、適切な Policy for Science へなるようにつなげてほしい。例えば、今般のコロナ禍において、数理分析を公衆衛生へ応用する研究が注目されたが、こういった研究が重要だと示すようなデータを NISTEP に出してもらいたい。

(事務局)

- フォーサイトに限らず、JST や NEDO など他機関とは連携している。更に関係を強めていきたいと考えている。

(委員)

- 資料 2 の p. 2 の 25 行目、「政策提言型」ではなく「課題提言型」としてはどうか。政策に反映するのは NISTEP の役割ではない。

(委員)

- NISTEP の役割を考えると「課題発見型」が良いのではないか。

(委員)

- NISTEP でこれまでなされてきた調査研究を行ううえで、課題は発見されていたと思う。その課題を解決するための案を提示するということで「政策提言型」ではないか。

(委員)

- 先の委員の発言が接続不良で途切れていたため、考えを汲み取り代弁する。
- データに基づき課題を設定するという役割はわかるが、NISTEP はその解決策として案をいくつか提示する役割もあるのではないか。その選択肢から選んで政策とすることは政治の役割である。そのため、以前は「政策提言型」という表現をしていたのではないか。

(委員長)

- 課題の提示に加えて、その解決策の提示まで踏み込むかどうかということだが、皆さんのご意見をお聞かせ願いたい。

(委員)

- NISTEP の設立理念として、政策立案の一翼を担うと今も謳われているので、あえて「政策」の文言をはずすことなく、原案どおり「政策提言型」ということで良いと思う。

(委員)

- 政策を提言するといってしまうと、何らかの政策を出すことが目的となってしまう、NISTEP

のミッションであるエビデンスデータの提供という役割が薄まってしまう。解決案をいくつか提示するというところまではわかるが、政策を出すというところまで踏み込むといきすぎている。政策提言を行うための選択肢を提示するというところまでで良い。

(委員長)

- ・ 選択肢を提示するというところまで記載して良いのだろうか。ケースバイケースで変わってくるものなので、包括的に表現できると良い。

(委員)

- ・ 「政策」というワードを取って「提言型」という表現はどうか。

(委員)

- ・ 「提言型」という表現が一つの落としどころだと思う。

(委員長)

- ・ いただいたご意見については、委員長預かりとして、科学技術・学術政策研究所における政策研究の在り方に反映させていくということによろしいか。

(委員一同) 異議なし

(委員長)

- ・ それでは、修正は委員長預かりとする。

**【議題2】** 本中期計画期間中に見込まれる活動実績に係る機関評価（案）について事務局より資料1、資料3の説明。主な質疑応答は以下のとおり。

(委員)

- ・ アウトリーチについて、単にアウトリーチすれば実際に活用されるというのではなく、相手の意見や要望を聞くといった相互の関係性が重要である。そういった関係を、いかに多くの相手と結んでいくかが大切であり、この視点も意識してほしい。

(委員長)

- ・ 機関評価については、この資料をもって検討会としては意見なしとしてよろしいか。

(委員一同) 異議なし

(委員長)

- ・ それでは、検討会としては意見なしとする。

【結び】 岡谷総務研究官より閉会挨拶

以上